

②熱塩村のおこり

平安時代のはじめごろ（西暦800年ごろ）、空海というお坊さんが五峯山慈眼寺を建立したというので、慈眼寺村とよばれたそうです。その後、会津山領岩崎の莊山入村ともよばれたと言います。永和元年（西暦1375年）、越後の国（新潟県）萩村の人でえらいお坊さんだった源翁禪師が護法山示現寺を開き、神様のおつげをえて熱湯（温泉）をわき出させてから、熱塩村になったと伝えられています。

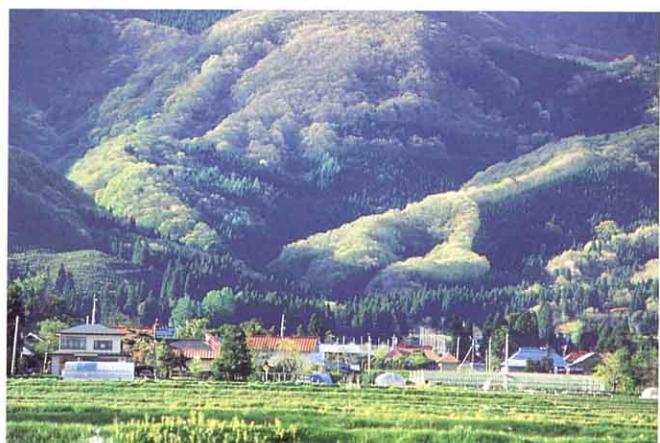


元現寺

明治8年水沢村、日中村と合わせて三和村になりましたが、明治10年に黒川村も合わせて熱塩村になりました。さらに、明治22年に山田、相田村と合併してもとの熱塩村ができたのです。

③加納村のおこり

五目、根岸、下谷地、鷺田、赤崎、半在家、岩尾、中川原、百木田中、上野、針生、二本木原といった地名の村々が、元加納荘百木郷に入っていました。この中の五目村は、江戸時代の終わりごろには五目組の中心地であったようです。明治8年に各村が合併して加納村、宮川村、米岡村の三ヶ村となり、明治22年には合併して加納村となりました。



加納地区の集落